

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

| 科 目 | ページ | 科 目 | ページ |
|-------|-------|-------|-------|
| 政治・経済 | 2～20 | 日 本 史 | 22～35 |
| 世 界 史 | 36～49 | 地 理 | 50～65 |
| 数 学 | 66～68 | | |

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・ 解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

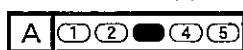
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

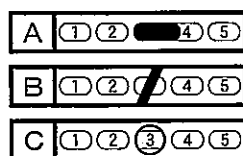
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

中国の歴史には画期とされる時代がいくつかあるが、とりわけ春秋戦国時代⁽¹⁾は「中国」なるものの基礎が確立された時代として重視されている。

殷⁽²⁾に代わって覇権を握った周⁽³⁾は、まだ都市国家の連合体(邑制国家)という性格が強かった。しかし春秋時代になると、都市に基盤を置く諸侯国の間に従属関係が生まれ、春秋時代中期には大国が小国を滅ぼし自らの領地としていくようになった。こうして、都市という単位を越えた広がりのある領地を一円的に支配する領域国家の時代が始まったが、その結果として200以上あった諸侯国は数十まで減少することになった。そして戦国時代⁽⁴⁾に入ると、覇権を争う国はわずか七つの強国にまで絞られていった。

このように春秋戦国時代は、国の数が絞られるとともに、国家のあり方が都市国家という点の支配から領域国家という面の支配へと変わっていく時代であったが、このことは人々の領域というものへの意識にも影響を与えた。それは面の内と外という意識、言い換えれば自分たちの世界とそれ以外の世界という意識を際立たせることになり、さらに自国領域の確保と拡大を志向させることになったのである。戦国時代の戦いは、この領域国家間での面の確保と拡大を巡る戦いと見ることが出来るが、それは秦による統一に至るまで続いたのである。

さらに注目すべきは、この「面の確保と拡大」という戦国時代を特徴付ける志向が、異民族世界とされた地域にも向けられたことである。秦は早く四川地方⁽⁵⁾の領域化に成功していたが、統一後に北は匈奴⁽⁶⁾征伐を行ってオルドス以北まで郡県制を拡大し、南は広東・広西からベトナム⁽⁷⁾方面にまで軍を進め、郡県を設置⁽⁸⁾した。これにより伝統的に「漢民族」が居住するとされる世界(中国世界、中華世界)のほとんどが、秦の郡県制の下で初めて一律的に支配されるようになり、曲がりなりにも「中国」という一つの単位が確立し、それに対応した「中国」という領域意識が生まれる契機となったのである。これもまた「面の確保と拡大」を志向した時代の

必然的な帰結と言うべきだろう。

ただし、秦の統一によりすぐに戦国時代の価値観が一掃され、世界が一元化されたわけではない。秦末に唱えられた「王侯将相いづくんぞ種あらんや」⁽⁹⁾という言葉は戦国特有の実力主義の風潮がなお社会に残っていたことを示している。また、かつての戦国各国の地には地方意識が強く残り、それに根ざす中国世界の多元性は呉楚七国の乱の終結に至ってようやく克服されたとも言われている。

⁽¹⁰⁾一方、空間的な枠組みだけでなく、文化的な枠組みとしての「中国」の確立もこの時代になされた。とくに諸子百家の活動は、中国の政治思想や哲学の基礎を構築した。なかでも儒家は「義」や「忠」や「孝」といった中国社会に特徴的な価値観を提示し、⁽¹¹⁾現在に至るまで多大な影響を及ぼしている。また伝統的な自然観・宇宙観⁽¹²⁾の基礎がこの時代に作られていることにも注意しておかなければならない。⁽¹³⁾

問1 下線部(1)について、この時代に関する記述として正しくないものをア～カのうちから全て選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 勾踐は夫差との戦いに勝利したが、のちに闔閭に敗れた。
- イ 齊の都の臨淄には学者が集まり、学術が発展した。
- ウ 周は尊皇攘夷の風潮が失われた戦国時代初期に滅亡した。
- エ 秦の富国強兵に成功した穆公は春秋五覇の一人に数えられることがある。
- オ 衛に生まれた商鞅は秦の強国化に寄与したが、のちに処刑された。
- カ 秦の宰相となった張儀の合従策により六国の同盟は崩壊した。

問2 下線部(2)について、殷の都(邑制国家の中心都市)が置かれていたと考えられている土地(現代の地名による)をア～エのうちから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 安陽 イ 鄭州 ウ 洛陽 エ 西安

問3 下線部(3)について、殷周革命は武力によって行われたが、このような王朝交替の形式を何というか。漢字2字で解答欄に記入せよ。

問4 下線部(4)について、戦国時代の始まりとしてよく取り上げられる出来事に晋の分裂があるが、晋を分割し、のちに諸侯国として公認された国は何か。全ての国を漢字で解答欄に記入せよ。

問5 下線部(5)について、四川省の成都近くに前2000年頃から栄えた、特異な形の青銅製仮面などによって特徴づけられる文化は何か。漢字で解答欄に記入せよ。なお、「文化」は省略しても構わない。

問6 下線部(6)について、匈奴に関する記述として正しくないものをア～カのうちから全て選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 冒頓単于は即位の後、始皇帝の遠征軍と戦い敗北した。

イ 前漢の武帝の時代には衛青が匈奴征伐に活躍した。

ウ 匈奴の別派である羯によって前趙が建国された。

エ 南匈奴は北匈奴を倒した後、東匈奴と西匈奴に分裂した。

オ 匈奴系の人々を中心に起こされた永嘉の乱によって東晋は滅んだ。

カ 鮮卑は匈奴に服属していた時期がある。

問7 下線部(7)について、ベトナムにおいて中国王朝の支配に対する最初の反乱とされる徴姉妹の反乱が発生した時の皇帝をア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 始皇帝 イ 武帝 ウ 光武帝 エ 明帝

問8 下線部(8)について、始皇帝が百越を征伐して設置した郡をア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 交趾 イ 日南 ウ 南越 エ 南海

問9 下線部(9)について、この言葉を発したとされる人物をア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 李斯 イ 陳勝 ウ 項羽 エ 劉邦

問10 下線部(10)について、この事件と時間的に最も近い出来事をア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 五銖銭の鑄造開始

イ 武帝の即位

ウ 郡国制の施行開始

エ 『史記』の完成

問11 下線部(11)について、以下の思想家のうち一般的に活躍したとされている時期が二番目に古い人物をア～オのうちから選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 孟子

イ 荀子

ウ 孔子

エ 墨子

オ 韓非

問12 下線部(12)について、秦の始皇帝は思想統制のために多くの儒者を穴埋めにしたが、この儒家弾圧を何というか。漢字2字で解答欄に記入せよ。

問13 下線部(13)について、陰陽五行説を集大成したとされる陰陽家を代表する人物は誰か。漢字で解答欄に記入せよ。

〔Ⅱ〕 つぎのAからCまでの文章はいずれもエンゲルベルト・ケンペルという人物について述べたものである。それぞれの文に関する設問に答えよ。

A 1691年(元禄4年)3月2日、ケンペルは長崎出島のオランダ商館付医師として、將軍綱吉に拝謁した。毎年行われる商館長の江戸参府に同行した際のことである。ケンペルが1690年に長崎に来て半年後のことである。ケンペルはこの商館長の江戸参府について、「ポルトガル人がそのころこうした儀式にやむを得ず従ったように、今また^a の代表者たる商館長もそれに従っている。」と記している。謁見した綱吉は、いろいろな質問を商館長に浴びせた。そのなかに以下のような会話もあったとケンペルは記録している。

「オランダは からどの位離れているか。」

「長崎から までの距離はどれほどか。」

問1 下線部aについて述べた次の文中の にあてはまる地名を解答欄に記入しなさい。

16世紀初頭にインド洋を越えて東南アジアに進出してきていたポルトガルは、1517年に広州で明との交易を始め、1557年には に居住権を得た。その間1543年に種子島に至り、1550年に平戸に来航して対日貿易を始め、1571年以降長崎へも進出した。

問2 この時期オランダ商館長が代表していた は、つぎのどれか。あてはまる語句を一つ選んで、記号をマークしなさい。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 オランダ王国 | 2 オランダ東インド会社 |
| 3 オランダ東アジア会社 | 4 オランダ共和国 |

問3 ケンペルはオランダの東南アジアにおける拠点である から日本へやってきていたが、それはどこか。あてはまる地名を一つ選んで、記号をマークしなさい。

- | | | | |
|-------|---------|----------|---------|
| 1 マニラ | 2 バンコック | 3 シンガポール | 4 バタヴィア |
|-------|---------|----------|---------|

B ケンペルは、長崎に来る前には、1689年にジャワの y に到着していた。ここはオランダのアジアにおける拠点であり、1619年に要塞が築かれ、東インド総督が置かれていた。それは東南アジア交易の根拠地であるとともに、東シナ海交易の出発点でもあった。ケンペルはここで1年をすごし、総督のヨハネス・キャンプハイスなどから日本についての詳細な情報をもたらして、1690年にタイを経由して、日本へ向かったのである。彼は、これより先、yへ来る前には、1688—89年に、インドの南のセイロンに滞在して、インド海岸地方やセイロンを視察していた。

問1 下線部 a に関連して述べた下の文章から誤ったものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 オランダは1623年のアンボyna事件を機に、モルッカ諸島からイギリスの勢力を追い出した。
- 2 オランダは、17世紀中ごろ中部ジャワのイスラーム国であるマタラム王国を征服した。
- 3 オランダは1641年、ポルトガルからマラッカを獲得した。
- 4 オランダはモルッカ諸島で採れる香辛料をヨーロッパへ輸出した。

問2 下線部 b について、下の文章から誤ったものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 1624年、オランダは台湾に拠点を獲得し、中国と日本に対する交易の拠点とした。
- 2 オランダは中国産の生糸を日本へ持ち込み日本の銀・銅と交換した。
- 3 清朝は民間人の海外貿易や海上交通を奨励していた。
- 4 1661年、明の遺臣である鄭成功が台湾からオランダを駆逐した。

問3 下線部cについて、下の文章から正しいものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 タイは、ベトナム、ビルマと同じく、清朝の冊封国であった。
- 2 タイは、14世紀以来、スコタイ朝の支配下にあった。
- 3 タイは、中国や台湾との交易を禁止していた。
- 4 タイは、オランダが来る前に、イギリスと交易していた。

問4 下線部dについて、下の文章から誤ったものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 ポルトガルは、1510年にインド西岸のゴアを占領し、総督府を置いた。
- 2 ポルトガルは、1505年にセイロンに至り、これを香辛料貿易の中継地とした。
- 3 イギリスは、1640年にポルトガルからセイロンを獲得した。
- 4 イギリスは、1661年にボンベイをポルトガルから獲得した。

C ケンベルは最初から日本へ来るつもりでヨーロッパを出たわけではなかった。ドイツ人である彼は、1683年にスウェーデン王がペルシア王に派遣した使節団の秘書官としてストックホルム^aを出発した。そして、ロシアのモスクワを經由して、カスピ海の西側を通過し、1684年にペルシア^bのイスファハーンに到着し、国王に拝謁した。ここで当初の使命は終わったが、ケンベルはここで^c
 x の隊商に同行して、1685年にペルシア湾口のホルムズ海峡に面した^d
バンダレ・アッバースに向かい、1688年まで3年余りをここで過ごした。ここで、彼は x の医師として雇われ、1688年にインドへ向かったのだった。

問1 下線部 a に関連して述べた下の文章から正しいものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 1523年、スウェーデンはフィンランドを中心とするカルマル同盟から離脱した。
- 2 デンマーク、スウェーデン、ノルウェー三国は、ハンザ同盟から脱退した。
- 3 スウェーデンは、ウェストファリア条約によって北ドイツに領地を得て、「バルト帝国」を成立させた。
- 4 1700年に、スウェーデンとドイツは北方戦争を戦った。

問2 下線部 b に関連する下記の諸事件を時代順に並べた1～4のうち、正しいものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- ア プガチョフの反乱がおきた。
イ ミハイル＝ロマノフがロマノフ朝を開いた。
ウ ピョートル1世が皇帝に即位した。
エ ステンカ＝ラージンの大農民反乱がおきた。
- | | |
|-----------|-----------|
| 1 アーイーウーエ | 2 イーエーウーア |
| 3 エーウーイーア | 4 エーイーアーウ |

問3 下線部 c に関連して述べた下の文章から誤ったものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 この時期ペルシアを統治するサファヴィー朝はシーア派を国教としていた。
- 2 サファヴィー朝はイスマーイール1世のときに最盛期を誇った。
- 3 この時期「イスファハーンは世界の半分」と言われるほど、首都は繁栄していた。
- 4 アッバース1世が、「イマームのモスク」を建設させた。

問4 下線部 d に関連して述べた下の文章の中の にあてはまる国名を解答欄に記入しなさい。

ペルシア湾岸にあるホルムズ島は、軍事的にも通商上も重要な地点にあった。かねてからイスラーム商人によって東西貿易のために利用されていたが、イスラーム商人の締め出しを目指す が、1515年にホルムズを占領した。しかし、ペルシアの絹を入手するため進出していたイギリス東インド会社の支援を受けて、1622年、サファヴィー朝は からホルムズを奪回した。その後、アッバース1世のときに、港湾の機能を対岸の町に移してこれを「バンダレ・アッバース」(アッバースの港)と称した。

D 網吉との拝謁などを終えて、1692年にケンペルは日本を離れた。再び y に立ち寄って、1693年にそこからインド洋を渡り、^a喜望峰を経て、^bオランダに帰った。1694年にドイツに帰ってから、『廻国奇観』(1712年)のほか、日本についての記録『日本誌』(1727年)を著した。この『日本誌』は、彼自身の作であるかどうかは論争があるものの、ヨーロッパにおいてカント、^cヴォルテール、モンテスキューらの啓蒙主義者やゲーテらに大きな影響を与えた。この本は1778年には日本に持ち込まれ、本多利明『西域物語』(1798年)中に「日本へ渡来の加比丹」「ケンプル」の名とともに出てくる。そして、1801年には『日本誌』の一部が『鎖国論』として翻訳され、それ以後「鎖国」という言葉が定着した。

問1 下線部 a に関連して述べた下の文章から正しいものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 1652年、オランダがここに補給基地(のちのケープタウン)を建設した。
- 2 ケンペルが立ち寄った時、ここにはイギリスのケープ植民地ができていた。
- 3 ここは15世紀以来ポルトガルが領有しつづけていた。
- 4 ここは1814年に、オランダの領有するところとなる。

問2 下線部bにおける17世紀の文化に関連して述べた下の文章から誤ったものを一つ選んで、記号をマークしなさい。

- 1 グロティウスが三十年戦争の惨禍を見て『戦争と平和の法』を著した。
- 2 市民生活を描き、「夜警」などの作品を残したレンブラントが活躍した。
- 3 光を効果的に使って日常生活や静物を描き、「天文学者」などの作品を残したフェルメールが現れた。
- 4 スウィフトの『ガリヴァー旅行記』が出版された。

問3 下線部cに関連して述べた下の文章を読み、にあてはまる人物をひとり選んで、記号をマークしなさい。

ヴォルテールは、1756年に出した『世界史と諸国民の習俗および精神についての試論』(全7巻)の「序文」において、それまでのヨーロッパにおける代表的な「世界史」の著者 を批判してこう述べていた。「あの偉大な歴史家は、あのような強力な帝国を打ち立て、あのように繁栄した支配を確立したアラビア人を、野蛮人の氾濫としてしまっているのです。エジプト人については詳しく述べているのですが、インド人や中国人についてはこれを全く無視しているのです。かれらは、少なくともエジプト人と同じくらい古くて重要であるにもかかわらず。」このように批判した上で、ヴォルテール自身はその世界史を東方から書き始め、日本をも含めた東方を世界史の中に位置づけようとした。ここでかれが批判している「歴史家」は、ルイ14世に仕え、王権神授説を唱えた神学者として知られている である。

- 1 ボーダン 2 デカルト 3 フィルマー 4 ボシユエ

〔Ⅲ〕 以下は、第1次世界大戦を終結させたヴェルサイユ条約、及びそれに基づき設立された国際連盟に関わる説明である。以下の問いに答えよ。

問1 国際連盟は、世界の多くの国が加盟する国際組織として発足した。連盟規約は、その前文で「締約国は戦争に訴えざるの義務」を受諾し、各国間の「公明正大なる関係」を規律し、「国際法の原則」を現実の基準として確立するとある。国際組織についてのこうした考えは、これ以前から唱えられており、強まった国家・地域間関係の緊密化がこうした組織化を必要とした。

- (1) 幸福は快楽の量によるとし、自由放任主義を主張したイギリスの哲学者は、同時に秘密外交の廃止、軍縮、植民地放棄を提起した。この人物の名前を語群Aから選べ。
- (2) イギリスの経験論、フランスの合理論を批判し、認識能力の限界を指摘した哲学者で、国際紛争防止のため国際平和機構の設立を主張した人物の名前を語群Aから選べ。
- (3) 黒海の覇権をめぐる戦争では、現在の国際赤十字に継承される活動が生まれた。この戦争の激戦地となった地名を語群Bから選べ。
- (4) 国際赤十字社の設立者の名前を語群Aから選べ。
- (5) ヴェルサイユ条約は、常設国際司法裁判所設置を規定したが、これは大戦前に開催された国際会議で合意された国際仲裁裁判所に代わる組織であった。この国際仲裁裁判所また軍備縮小などを協議したこの会議の主唱者の名前を語群Aから選べ。

問2 連盟規約は、連盟は総会、理事会、事務局をもって構成されるとした。重要な役割を担う連盟理事会は、「主たる同盟及び連合国の代表者」である常任理事国と「ほかの4連盟国の代表者」である非常任理事国で組織された。

- (1) 本部の置かれた都市を語群Bから選べ。
- (2) アジアから常任理事国入りした国名を語群Bから選べ。
- (3) 1926年から常任理事国は5カ国となった。その5カ国めの国名を語群Bから選べ。
- (4) 常任理事国の構成国は、その後変化したが、最終的にはソ連が除名され、英仏二国となった。これは何年の出来事か。語群Cから選べ。
- (5) 米国は連盟に参加せず、「常態への復帰」を唱えて孤立主義に復帰した。この主張を掲げた大統領の名前を語群Aから選べ。

問3 ヴェルサイユ条約は、ドイツと連合国間で締結された講和条約であるが、これに次いでほかの敗戦国とも講和条約が締結され、それによってヨーロッパの領土関係が定められ、新たに主権国家が成立した。

- (1) オーストリアと連合国が締結したのは、()条約である。括弧に入る言葉を語群Bから選べ。
- (2) ハンガリーと連合国が締結したのは、()条約である。括弧に入る言葉を語群Bから選べ。
- (3) (1)(2)の条約によりオーストリアは解体され、その北部分には西スラヴ人から成るチェコスロヴァキアが成立した。初代大統領となった人物の名前を語群Aから選べ。
- (4) (1)(2)の条約により南スラヴ人から成る国家が成立した。この国家の名前を語群Bから選べ。
- (5) ドイツは、軍備を制限されるとともに国境地域で多くの領土を割譲した。このうち国際連盟保護下の自由都市としてポーランドに割譲された港湾都市の名前を語群Bから選べ。

問4 ヴェルサイユ条約第22条は、第1次世界大戦の結果支配国から離れた旧植民地と、近代世界の「激甚なる生存競争」の下で自立しえていない人民を「先進国」の委任統治とした。

- (1) オスマン帝国と連合国が締結したのは()条約である。括弧に入る言葉を語群Bから選べ。
- (2) (1)の条約はオスマン帝国の解体につながった。この後アンカラに設立された共和国政府は、侵入したギリシア軍と戦うとともに「トルコ人のためのトルコ」のスローガンを掲げて領土から他民族の一掃を図った。この統一運動を指導した人物の名前を語群Aから選べ。
- (3) オスマン帝国領からフランスの委任統治領となった地域を語群Bから選べ。
- (4) アラブ独立運動の指導者フセインは、イギリスのマクマホンとの間でアラブ人の独立国家を承認する旨の協定を交わしたが、約束は果たされなかった。その息子ファイサルは、イギリスの委任統治領から独立する国家の国王となった。この国家を語群Bから選べ。
- (5) オスマン帝国領でアラブ人とシオニズム運動を進めるユダヤ人の係争地となったのは、イギリスの委任統治領となったパレスチナである。パレスチナが委任統治領となったのは何年の出来事か。語群Cから選べ。

問5 1920年代後半に「国際協調」といわれる安定に入った世界情勢は、その後1929年の世界恐慌により不安定化する。

- (1) 1924年にドイツの戦時賠償の道筋を示し、ドイツの経済再建と国際社会復帰をもたらす提案を作成した人物の名前を語群Aから選べ。
- (2) ドイツの国際協調政策を担った人物で経済回復と平和外交を担った人物は誰か。その名前を語群Aから選べ。
- (3) ヴェルサイユ条約で割譲されたが、ヒトラー政権成立後に住民投票を経てドイツへ復帰した地域の名前を語群Bから選べ。
- (4) アジアでは日本が中国大陸で柳条湖事件を起こして満州事変を開始した。これに対し国際連盟は調査団を派遣して、日本の侵略行為を認定した。これは何年の出来事か。語群Cから選べ。
- (5) チェコスロヴァキアにズデーテン割譲を要求したドイツに対してチェンバレンと共に交渉にあたったフランス首相の名前を語群Aから選べ。

語群A

- | | | | | | |
|----|--------|----|----------|----|-----------|
| 1 | ウイルソン | 2 | ヴィルヘルム1世 | 3 | エーベルト |
| 4 | カント | 5 | クレマンソー | 6 | シュトレーゼマン |
| 7 | グラディエ | 8 | デュナン | 9 | ドーズ |
| 10 | ニコライ2世 | 11 | ハーディング | 12 | ビスマルク |
| 13 | フーヴァー | 14 | ヘーゲル | 15 | ベンサム |
| 16 | ホップズ | 17 | マサリク | 18 | ムスタファ=ケマル |
| 19 | ヤング | 20 | ロック | | |

語群B

- | | | | | | |
|----|------------------|----|----------|----|----------|
| 1 | イタリア | 2 | イラク | 3 | オランダ |
| 4 | ザール | 5 | サン=ジェルマン | 6 | ジュネーヴ |
| 7 | シリア | 8 | スイス | 9 | セヴァストーポリ |
| 10 | セーヴル | | | 11 | セネガル |
| 12 | セルブ=クロアート=スロヴェーン | | | 13 | タイ |
| 14 | ダンツイヒ | 15 | 中国 | 16 | チューリヒ |
| 17 | デンマーク | 18 | ドイツ | 19 | トリアノン |
| 20 | 日本 | | | | |

語群C

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 1920 | イ | 1921 | ウ | 1922 | エ | 1924 | オ | 1925 |
| カ | 1931 | キ | 1932 | ク | 1933 | ケ | 1935 | コ | 1936 |
| サ | 1937 | シ | 1938 | ス | 1939 | セ | 1940 | ソ | 1941 |

(条約文は、外務省編『日本外交年表並主要文書』上巻，原書房，1965年，493—500頁による)